

瀋陽だより

2016年2月

報告者：東北育才学校

高井 奈央子

育才学校の外国語教育

まだ中国に来たばかりの頃、育才学校の先生のご厚意で、中学部の英語の授業を見学させていただいたことがあります。丁度日本で言う所の「研究授業」が行われていたらしく、私以外にも多くの先生方が見学しながら熱心にメモを取っていらっしやいました。

私が驚いたことは2つあります。一つ目は、教師も生徒も授業中は全て英語しか使わなかったこと。2つ目は、生徒たちのプレゼンテーションが授業の中心だったことです。

中国は日本よりはるかに合理的に物事を割り切る傾向にあります。中国では、学校とは勉強をする所で、教員の仕事とは勉強を教えることです。従ってその採用基準は担当教科に関する能力が重視され、授業に専念できるような労働条件と職場環境が準備されています。当然、英語担当ならば留学経験が求められ、生徒もまたそういった教育（英語で話す力）を求めて育才学校に集まっています。この国では、良い教育にはお金がかかって当然だとされています。中国では教育費はほぼ個人負担となっていますが、良いものを求めるならば出費は当たり前のことだと考えているようでした。

また日本とは違い、大変な仕事にはそれに見合った報酬が当然だとされているので、担任や主任などの教員には割増賃金が支払われています。同じ賃金なのに、他の人より負担が大きい仕事をするなどありえないというのがこの国の論理です。



教育だけでなく、この合理性は生活のあらゆる場面に見え隠れしています。基本的に中国のバスは冷暖房がついていません。冬は最低気温が-20度になるというのにエアコンがないので、冷え性の私はバスに乗っているだけで手足が凍えます。しかし、いくつかの新しい路線では、エアコン付きの車両が導入されています。料金は2元（日本円で35-40円）。普通のバスの2倍です。距離や目的地は関係ありません。2倍である理由は、もちろんエアコン付きの車両だからです。

高い料金は良い車両を運用し続けるための必要経費なのでしょう。旧型バスと同じ料金では車両を購入した費用に見合わないし、「同じ料金なのに違うグレードのバスなんておかしい」と考えるのが普通なのです。

タクシーもクーラーをつけてもらおうと1元（約18円）の追加料金を支払わなければなりません。長距離バスの料金も、瀋陽で購入すると人件費の関係で高くなります。日本人からすると不可解かもしれませんが、理屈さえ分かれば非常に合理的な考え方をしているということが分かります。

日本で暮らしていると、安くて良いものを求めることが当たり前になっていますが、本当に考えなければならないことは、それが正当な値段かどうか、ということなのかもしれません。この国の報酬システムや物の考え方を知ってしまうと、日本の安くて高品質なものを求める姿勢が少し恐ろしく思えます。あまりにも安価かつ高品質であるものの背後に、誰かの負担や犠牲があるのではないかと、多少高くても、それに見合った内容を維持し続けるためには、我慢して支払うことも必要なのではないかと。

中国は私に物の価値とは何かということを考えさせます。



ハルビン 哈爾濱

「(中国の) 東北地方の冬の名物は何ですか?」と質問すると、「哈爾濱の氷祭りですよ」という返事が多いです。哈爾濱は瀋陽から高速鉄道で約 2 時間半のところにある、ロシアと縁の深い都市です。冬場の最低気温は-35 度。身体のあちこちにホッカイロを貼りつけても、カイロの方が負



てしまうほどの気温です。スマートフォンやカメラはカイロで温めておかないと、あっという間に動かなくなってしまいます。昼はもう少し暖かいのですが、やはり誰に聞いても氷祭りは夜に行くべきだと言われたので、思いつく限りの防寒対策を施して、夜の哈爾濱へ行ってみました。

会場は蛍光色に輝く氷の城が立ち並び、大人も子どもも、城の上部に設置された滑り台で楽しそうに遊んでいました。普通の生地では滑りにくいのですが、スキーウェアのようなナイロン地のズボンを穿くと、より一層スリルを味わうことができます。

会場ではサンザシや金柑の串刺しが売られていました。同じものは瀋陽の街角でも売られているのですが、哈爾濱の方がおいしかったです。瀋陽の果物の串刺しは表面だけが凍結していますが、哈爾濱の場合は中まで凍っています。私が食べた金柑も、丸ごとシャーベットのような状態になっていてすっきりした味わいでした。

しかしあまりにも寒いためか、ホッカイロの持続時間が短く、すぐに冷たくなってしまいました。会場に留まることができるのは 1 時間~1 時間半が限度だと思います。

哈爾濱氷祭りは私にとってとても面白いイベントでしたし、氷の城の他に展示されて

いた氷の彫刻も綺麗だったと思います。しかし、札幌出身者が言うには「札幌の雪まつりの方が凄い」のだそうです。故郷への愛ですね。



哈爾濱のもう一つの見どころと言えば聖ソフィア大聖堂です。ロシア風建築が立ち並ぶ中央大街の横道に入ってしばらく歩くと、そのシンボルであるドーム状の屋根が見えてきます。

ビザンチン風のデザインと年月を感じさせる壁面が魅力的です。写真には写っていませんが、聖堂周辺には鳩が餌を求めて人間に近寄ってきます。白い鳩が一斉に飛び立つ瞬間は絵画のように美しかったです。

この聖堂は既に礼拝堂としての機能を持っておらず、内部は哈爾濱開拓期の写真や資料の展示場になっています。日本関連の写真も複数あり、どれも興味深かったです。

哈爾濱のもつヨーロッパ風の街並みとこの聖堂は、中国人からも人気があるようです。春節の休暇を早めにとったのでしょうか、メインストリートや教会で結婚写真を撮っているカップルもいました。

この日の日中の気温は-8度と暖かったせいか、道行く人々はアイスクリームを食べながらショッピングをしていました。慣れとは恐ろしいもので、-35度を知ってしまうと-8度は暖かく感じられます。あの夜の極寒を体験していたので、私もアイスクリームを食べたくなるという気持ちが理解できました。

哈爾濱はヨーロッパ的雰囲気と中国の力強さが混ざったとても魅力的な街でした。

